

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発達心理学 I Developmental Psychology I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特に無し				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「発達心理学」は、人の一生における、身体諸器官・運動諸機能・精神諸機能・対人関係などに生じる様々な“変化”に対し、心理学的な見地から法則性を見出し貢献しようとする学問である。本講義では、発達全体に関する知見の習得と、特に胎児期～乳児期の発達の特徴の理解に焦点を合わせ、学習していく。</p>				
授業の目標				
<p>①「発達」に関わる様々な心理学的現象を第三者に説明できるようにする。  ②子どもたちの変化のありようを確認する際の着眼点を学び、事例等に対し適用できるようにする。  ③発達記録・観察記録をとる際のポイントを的確に押さえられるようにする。  ④新生児期～幼児期の発達支援のポイントを知り、説明できるようにする。  ⑤発達初期の重要性を認識し、説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。単元の終了ごとに小テストを行う。  好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>(1)大まかな発達の流れを掴み、発達のしくみを理解し、各々の段階で現われてくる諸現象の知識を持つことができる。  (2)目の前にいる子どもをより深く具体的に理解する視点を身につけることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 発達とは 保育に求められる発達の知識			
第2回目	子ども理解の視点と方法：子どもの行動の観察（観察法の実際）			
第3回目	子ども理解の視点と方法：子どもの話を聴く（面接法の実際） 記録の取り方			
第4回目	子ども理解の視点と方法：保育の中での工夫と応用（実験法の実際） チームで事例を考える（事例研究法）			
第5回目	発達のしくみとその援助：発達の法則と現象			
第6回目	発達のしくみとその援助：初期経験の重要性 レディネス 敏感期（学習最適期）			

第7回目	発達のおくみとその援助：遺伝と環境 保育における発達支援 （※次週、レポート提出）	
第8回目	胎児期の発達：胎児の発達について 妊婦への支援 新生児期の発達：新生児の特徴とその感覚 新生児期の運動能力と認知能力 低体重出生児・母親へのケア	
第9回目	乳幼児期の発達：乳幼児期の身体・運動機能の発達 身体とこころの関係	
第10回目	乳幼児期の発達：乳幼児期の知覚と認知の発達 子どもは世界をどう捉えているのか	
第11回目	乳幼児期の発達：乳幼児期の知的機能の発達	
第12回目	乳幼児期の発達：乳幼児期の感情と自我の発達 他者との関わりから芽生える基本的信頼感	
第13回目	乳幼児期の発達：乳幼児期の言葉と社会性の発達	
第14回目	保育の心理学：子どもの発達を理解することの意義、子どもを取り巻く大人の発達	
第15回目	保育の心理学：発達観・子ども観と保育	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	15% 講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。
	レポート	20% 「発達を促す環境とは」という主題で、第8回目授業で提出。教育者としての実践的で多角的な視点を期待する。
	調査報告書	
	小テスト	5% 単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
	試験	60% 学年末に論述試験を実施。授業目標①～⑤が反映された、設問への適切な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
	発表内容（態度含む）	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書：「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」本郷一夫〔編〕（建帛社）。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
発達についての知識無くして保育・教育現場での適切な関わりは期待できない。従って、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。私語を慎み、真剣に受講すること		